

# シリーズ 石見銀山<sup>④</sup>

## 銀山の酒事情—金森家の調査等から明らかとなったこと—

鳥根県指定史跡「石見銀山御料郷宿泉屋遺宅金森家」では建物の修理工事と並行し、発掘調査や古文書の整理作業などが行われました。平成30年度に実施された発掘調査では土間の西側から酒造に関連する遺構（写真①）が複数見つかっています。これらの遺構は出土遺物や構造、文献の調査成果などから、明治・大正時代にかけて使用されたものであることが明らかとなりました。また、建具の修理に際し、江戸時代の酒造業者の帳簿類が襖の裏貼に使用されていることが明らかとなりました。

この帳簿を一枚ずつ剥がし、整理すると「どこ」の「誰」に「何」を販売していたのかが見えてきました。写真②は、帳簿の一部ですが、顧客の多くは大森町の住民であり、身分を問わず様々な人々がこの店を利用していたようです。帳簿には町人以外にも役人や僧侶などの役職が記載されています。販売された商品は上酒や並酒、名酒、焼酎など酒類だけでも複数の銘柄があったようです。また味醂や酒粕などの酒造副産物も販売されていました。このほか「山とふる」という記述もあり、これが何を表しているのかは不明ですが、多くの商品を取り扱い、活況を呈していた江戸時代の造り酒屋の様子が想い起こされます。

大森町以外に、水上町や仁摩町大國周辺でも、造り酒屋が営まれていた様子が今も見られます。多くは明治時代以降の建物ですが、江戸時代以前にもこの地域では酒造業が盛んだったようです。1600年に毛利氏に納められた納税の記録を見ると、銀

大田市は、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の保全と活用をすすめています。



①釜場  
(米を蒸すための釜) 遺構

③銀山周辺に残る  
酒造施設

②金森家の調査で見つかった帳簿類

【お問い合わせ先】大田市役所石見銀山課 ☎0854-83-8133

山周辺の酒造業者からは一年間に銀350枚が徴収されています。温泉津周辺の酒造業者からは銀21枚が徴収されていますので、銀山周辺での酒造業がいかに活発であったかが資料からうかがえます。

酒造には米のほかに上質の水が必要となります。鉱山開発が盛んなこの地域でこれだけ酒造業が営まれた背景には、地理的な要因に恵まれているだけでなく、環境に配慮した開発があったのではないのでしょうか。

今回は金森家の調査事例から「酒」をテーマに銀山周辺の歴史の一端に迫ってみたいですが、調査が進むにつれ、繁栄時の銀山の様子がより明らかになると期待されます。今後の成果にご期待ください。

## 第71回全国植樹祭しまね2020トピック

### 三瓶のアカマツを使用した 学習机の天板を地元小学校に寄贈

大田市林友会が、三瓶山で伐採されたアカマツを大市内の業者で加工、製作した天板を池田小学校、北三瓶小中学校、志学小中学校に合計42枚を寄贈されました。

児童・生徒たちは市内の林業や製材業について学習した後、天板を取り付ける作業を行い、綺麗な机でうれしい、大切に使いたい。と喜んでいました。



贈られた天板

### 全国植樹祭 大田市記念品が決定

全国植樹祭の招待者へ贈る大田市の記念品が決定しました。

「全国植樹祭大田市記念品選定委員会」により、提案のあった47商品の中から、11商品が選ばれ、全国植樹祭の招待者や出演者（県内外から約5,000人）へ贈られます。



記念品11品

【お問い合わせ】大田市役所産業振興部森づくり推進室 ☎0854-83-8170